平成２３年度第４回企業倫理委員会　議事概要

１．日　時　　平成２４年3月5日（月）　１０：００～１１：５０

２．場　所　　中国電力株式会社　本社１号館１２階特別会議室

３．出席者

（委員長）	山下　　隆	会長
（副委員長）	馬場　則行	弁護士
（副委員長・幹事）	清水　希茂	副社長（ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ推進部門長）
（委　員）	今中　　亘	中國新聞社 特別顧問
	磯村　定夫	中国地域ニュービジネス協議会 専務理事
	苅田　知英	社長
	白築　　透	中国電力労働組合執行委員長
（オブザーバー）	波若　清暉	常任監査役
（説明者）	藤井　弘昭	執行役員 ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ推進部門 ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ･ﾘｽｸ管理部長 兼．原子力強化プロジェクト専任部長
	畝本　耕治	執行役員 販売事業本部 配電部長

４．議事要旨

【委員長あいさつ】

○　コンプライアンスの推進については，引き続き，「コンプライアンス最優先」の意識の浸透を図っていくとともに，昨年の東日本大震災の発生以降，社会からの要請に応え，お客さまの視点に立って，日々の業務を責任を持って行うことの重要性がより一層高まっていることから，今年度と同様，来年度も「責任ある業務遂行」と「業務品質の向上」を重点課題として取り組んでいきたい。

【１．コンプライアンス推進の取り組み状況について】

島根原子力発電所点検不備に対する取り組み状況，コンプライアンス推進施策の主な実施内容，平成２４年度全社コンプライアンス推進の取り組みについて説明した後，議論を行った。

＜主な意見＞

〔島根原子力発電所点検不備に対する取り組み状況について〕

○　島根原子力発電所点検不備問題に対する再発防止対策は，計画に沿って着実に実行されている。今後も施策の妥当性検証や効果確認等を適宜行い，必要であれば計画を変更するくらいの柔軟性を持って進めてほしい。

○　現地で原子力発電所事故の影響を肌で感じた同僚の声というのは説得力があり，福島支援派遣者体験談の共有は効果的な取り組みである。

○　今年１月に発生した，計測装置が４チャンネルとも動作不能となった不適合事象（Ａグレード）については，徹底した原因究明を行ってほしい。

〔コンプライアンス推進施策の主な実施内容について〕

○　今回グループ企業で発生した個別事案が長期間に亘り判明しなかったことを踏まえると，コンプライアンス最優先の意識がグループ各社の隅々まで徹底できていなかったと言わざるを得ない。

○　事案の調査をする際，あるいは，事案の発生を受け同種事例の有無を確認する際には，当事者に聞き取るだけでは事実が明らかにならない恐れがあることから，客観的な手段で事実関係を調べる必要がある。

〔平成２４年度全社コンプライアンス推進の取り組みについて〕

○　職場実態・社員意識調査について，平成２４年度は職場での効果的な活用ができるよう設問等を工夫して実施すればよいと考えるが，２５年度以降は社員の意見も分析のうえ検討してほしい。

【２．内部通報制度の運用状況について】

平成２３年１１月～平成２４年１月における内部通報制度の運用状況について説明した後，議論を行った。

＜主な意見＞

○　内部通報制度は適切に運用されている。

（添付資料）

資　料　「コンプライアンス推進の取り組み状況について」

以　上